

校長室より

「天空高き」



第57号



平成26年3月17日

卒業式

3月1日に、今年も3年生を盛大に送り出すことができました。これも在校生諸君の協力のお陰です。ありがとうございました。

ところで、その後、送り出したばかりの卒業生が、いつも通り制服姿で登校していました。それは、国公立2次後期試験に向けての勉強のためでした。

最後の最後まで誠実に一生懸命に取り組む姿勢には、頭が下がりました。彼らの頭上に、の花が咲くことを切に願っていますが、受験を通して彼らはたくさんのことを体験し、学んだことと思います。この経験はきっとこれからの新たな生活に生かされることでしょう。



同窓会入会式

卒業式の前日2月28日に、高水学園同窓会入会式を、森橋同窓会長ご臨席のもと、体育館で行いました。

森橋会長は、今年度卒業生203名の同窓会への入会の歓迎と感謝を述べられました。また、「卒業式を終えた後には必ず、ご両親に対して感謝の気持ちを言葉で表すこと。卒業後は、進学、就職に分かれても、とにかく、置かれた場で、しっかり頑張ること。特に、就職する生徒に対しては、就職した先の会社が一番だと思って、一生懸命働くこと」を強調されました。大先輩として、企業のトップとして、本当に厳しくも温かい言葉をいただきました。



春風や 闘志いだきて 丘に立つ 高浜虚子

頑張れ高梨沙羅！

ソチ五輪でメダルを最も期待された彼女がまさかの4位。その彼女が「次に何ができるかを考えたら、W杯の総合優勝を取ること」だった。

前向きな彼女は見事にW杯の総合優勝を決めました。そのときの彼女のコメントは、「五輪でメダルが取れなかったことは悔しいけど、今まで応援してくれた人たちに感謝の気持ちを伝えるためにも、勝ててちょっとホッとした気持ち」でした。いつも感謝の気持ちを忘れない彼女、そして、素直な喜びの心情を吐露したコメントでした。そんな謙虚で、まっすぐな彼女ですから、これからも応援したくなりますし、次のオリンピックでは金メダルを、と期待してしまいます。

ノーベル賞を取るために「してはいけない5か条」

ノーベル賞には6分野（物理学、化学、生理学・医学、経済学、文学、平和）あり、1901年から2011年までに853名が受賞しました。国別受賞者数はアメリカが圧倒的に多く、計326人になります。日本のノーベル受賞者は18名で、世界で第8位です。日本人が唯一受賞していない分野がありますが、皆さんは6分野の中どの分野だと思いますか。経済学の分野です。

ところで、ノーベル賞を取るためには「してはいけない5か条」というのがあるそうです。

①しがらみにとらわれてはならない。②大先生を尊敬しても、のめり込まない。③無用な情報を抱え込まない。④主張を貫くために戦うことを避けてはならない。⑤初々しい感性と好奇心を失わない。

ノーベル賞を取るために「してはいけない5か条」は、新しい発明や発見を見つけ出すときばかりでなく、皆さんが何かを成し遂げたいときにも「してはいけない5か条」ですね。

毎日の小さな積み重ねが・・・

私が毎日心掛けていることは、①心を込めた挨拶をすること ②家に帰ったら家族の靴を揃えること ③ゴミが落ちていた拾うこと です。

誰もができる、当たり前のことですが、60歳を前にして、今なお、日々苦闘している、というのが現状です。

考え方に気をつけなさい
言葉に気をつけなさい
行動に気をつけなさい
習慣に気をつけなさい
性格に気をつけなさい

それはいつか言葉になるからです
それはいつか行動になるからです
それはいつか習慣になるからです
それはいつか性格になるからです
それはいつか運命になるからです

マザーテレサ

一人前の修道女になるためには、数年の準備期間があり、30歳近くで入会した。・・・20代の若いアメリカ人・百数十名と、ボストン郊外の広大な修練院で修行していた1年間のある日のこと。

その日は夏の暑い午後だった。私の割り当てられた配膳の仕事を食堂で果たしていた。百数十の皿、コップ等を長机の上、パイプ椅子の前に一つひとつ並べてゆく仕事を、沈黙のうちに手早く行っていた時だった。

突然、「あなたは、何を考えながら仕事をしているのですか」と厳しい顔をした修練長の姿があった。「別に何も」と答えた私は、「あなたは時間を無駄にしている！」と叱責された。命ぜられたことを、命ぜられたようにしていたから戸惑いを隠せなかった。

修練長は、そんな私に今度は優しく諭すのだった。「時間の使い方は、そのまま命の使い方なのです。同じ仕事をするなら、やがて夕食の席に着く一人ひとりのシスターのために祈りながら並べてゆきなさい」

何も考えないで皿を並べるなら、ロボットの仕事と同じだ。「つまらない」と考えて過ごす時間は、つまらない人生しか残してゆかない。同じ時間を費やすなら、一つ一つの皿を並べる時に、「お幸せに」と、私にしかこめられない愛と祈りを込めて並べて、初めて私は愛と祈りの人生を送れるのだということを、その日、その時、教えられたのだった。

時間の使い方は、命の使い方、この世に“雑用”という用はない。用を雑用にした時に、雑用が生まれるのだということを、心に叩き込まれた修練院の一コマであった。

生きていく上では、嫌なこと、したくないこと、欲しくないもの、気に入らない相手など、数々の自分にとって“有り難くない”ものごとに向き合わないといけないことがある。つまらない仕事を、つまらなくない仕事に変える術を、若くして修道院で教えてもらえたことを、私は、感謝している。

「しあわせは、いつも自分の心が決める」のであり、私たちは、環境の奴隷ではなく、環境の主人となり得る人間の尊厳を取り戻さなければならない。

マザーテレサは、炊き出しをするシスターたちに必ず3つのことを実行するように諭しておられた。パンとスूपボールを渡すときには、相手の目を見て、ほほえむこと、手に触れて、ぬくもりを伝えること。そして短い言葉がけをする、という3つであった。それはロボットにはできない、人間の、他の人間に対する愛と祈りの表現であった。

仕事を“する”doingも大切だが、どういう自分かというbeingを忘れてはいけないのだ。

東日本大震災から3年—我々は今何をすべきなのか—

2時26分、サイレントとともに黙祷しました。大震災から3年経過しました。今なお多くの被災者が、被災地で、また、避難先で困難な暮らしを余儀なくされています。

大震災から、私たちは、自然を畏怖し、決して傲慢にならず、謙虚に生きていくことを学びました。震災の記憶や教訓を風化させず、後世に伝えて行かねばなりません。今、改めて、私たち一人ひとりが、やらなければならないことは、一体何でしょうか。お笑いコンビの「サンドウィッチマン」さんは、読売新聞の記者に対してこんなことを述べられていました。

お笑いコンビ サンドウィッチマン



三浦邦彦撮影

「周りを考える」支援の原点

伊達みきおさん 東日本大震災が起きたとき、テレビの収録で宮城県の気仙沼港にいました。避難した山の上から、津波に襲われ、火事が始まる町を見て、東北のために働こうと思いま

した。それからブログやテレビ、使える物は全部使って寄付と支援を呼びかけました。その間、頭にあったのは「自分だけ気持ちよくないっちゃダメだ」という言葉

ありました。当時の僕は遅刻を繰り返して、成績も下から数えた方が早いくらい。朝礼がつかまらないと嫌いだこともあった。周囲の人の気持ちを考えて自制することができ

私の先生

です。仙台市立仙台商業高校で、3年と担任だった梶川藤雄先生が僕を叱る時にしつこく口にいっていました。

先生は当時40歳くらい。身長は180以上あって体格もよく、声もでかい。にらみつけるだけで悪い盛りの僕らを黙らせるオーラが

サンドウィッチマン伊達みきお（写真右、たて・みきお）、富沢たけし（同左、とみざわ・たけし）。ともに1974年生まれ、仙台市出身。高校の同期生で、98年にお笑いコンビを結成。チャリティーライブなどで3億円以上を集め、東日本大震災の被災地に寄付した。最新の漫才やコントを収録したDVD「サンドウィッチマンライブツアー2013」発売中。

ず、自分が楽しければそれでいいと思っていた。先生はそんな僕が心配だったのかもしれない。広瀬川の河川敷でラグビー部の練習をしている僕を、顧問でもない先生がしょっちゅう尻に來ましたもん。悪さして

（聞き手・大広悠子）